

# 「明治はひとつ」

校友会の2018年度定時代議員総会が7月29日、駿河台キャンパス・リバティホールで開催された。同総会での向殿政男校友会会長、柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長のあいさつを抜粋してここに紹介する。



校友会会長 向殿 政男

全国津々浦々、韓国、台湾からご出席いただき誠にありがとうございます。西日本を中心に四国、九州に台風が接近している中、総会へご出席賜り厚く御礼申し上げます。本日、会場が満員になるほど明治大学への母校愛が強いことがわかるこの状況に対し、重ねて感謝申し上げます。

ご存知のように明治大学は、現在大変人気のある大学になりました。これも皆さまの校友会活動や一般社会での社会的な貢献が現在の評判につながっています。

校友会長を仰せつかり、会長の任期を1期4年で2期8年までという校友会規則をつくりました。前会長の残任期2年をふくめ今年で9年目を迎えます。全部で10年になりますので、残すことあと1年です。皆さまの母校愛のもとでこのようなお仕事をさせていただき、大変幸せな気持ちです。「大学に対して何ができるか」という考え方が母校の発展や後輩への支援につながり、母校愛に溢れた卒業生を輩出することにつながります。代議員総会は明治大学校友会の最高意思決定機関です。本日、皆さまにご審議いただきその結果を踏まえ、次年度計画や母校への支援方法を検討していきたいと思っております。

我々校友会は大学に対して「奨学金」を出しております。既存の奨学金として地方型奨学金「つなげ!紫紺の「たすき」」がありますが、このたび2018年度より新たに「前へ!」という経済型奨学金を始めることになりました。これは家計の苦しい学生への救済を目的とした奨学金で、大学を通して支援するものです。その他、寄付の募集等もおこなっております。

また、校友会には「紫紺NET」というSNSサイトがございます。これは明治大学の現役生と校友が情報交換することができるサービスで、就職活動の支援や大学・校友会から情報提供をおこなえるものです。このような媒体を通して大学・校友会の連携および校友との橋渡しをおこない、今後は若手校友や女性の参画に着手することで、問題点や現状の課題に取り組むために、引き続きご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

本日の審議が慎重におこなわれ、本学への大学支援につながりますことを祈願いたしまして、あいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 大学に対して何ができるか



理事長 柳谷 孝

向殿政男校友会会長をはじめ、校友会の皆さまには日頃より本学の発展に多大なるご貢献を賜り、厚く御礼申し上げます。今月初めには記録的な豪雨により甚大な被害がございました中、広島、岡山、愛媛をはじめ西日本各地からも多数のご出席をいただき、改めて御礼を申し上げますとともに、被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、今理事会も3年目を迎えましたが、2015年からの多摩テック跡地に関する裁判が結審いたしました。これに伴い2017年度決算では約10.3億円の費用計上がございましたが、おかげさまで企業の純利益に相当する基本金組入前当年度収支差額は、約14.1億円のプラスとなり、2016年度とほぼ同水準の黒字となりました。学納金収入や入学検定料の増加を筆頭に、かねてより取り組んでおりました本学が保有するアセットの見直しや、水光熱費等のコストコントロールが黒字の大きな要因となりました。

ところで、現在、海外からの留学生と地方出身の日本人が共に学び生活する場となる「明治大学グローバル・ヴィレッジ」の建設が、2019年春の竣工に向けて順調に進んでおります。また、和泉第二校舎の南側に、教養教育、初年次教育や国際教育の展開などの教学の設計コンセプトを基にした和泉キャンパス新教育棟を建設する準備が始まりました。そして、本年度より第2期中期計画がスタートし、最終年度である2021年には創立140周年を迎えます。創立150周年を見据えながら、創立140周年記念事業の準備も今年度より開始いたします。

全国の校友の皆さまには、母校明治大学が日本はもちろんのことアジアのトップユニバーシティとして未来に輝き続けていくために、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びになりますが、本学には経済的に大変苦境にある学生が多くおります。皆さまのお手元には未来サポーター給費奨学生からの「感謝のことば」抜粋版がございます。昨年この場で皆さまにご支援をお願い申し上げましたが、資料にございますようにご寄付の額が過去最高となりましたことにこの場を借りまして厚く御礼申し上げますとともに、本日の定時代議員総会の議事が円滑に進行しますことを祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

## 未来に輝き続けていくために



学 長 土屋 恵一郎

今年も各地の校友会支部総会に出席させていただきました。歓迎をさせていただきました。感謝申し上げます。こうして本日また皆さまにお会いすることができたことをとても嬉しく思っております。

先ほど校友会会長及び理事長からお話があったように、明治大学は現在、非常にいいポジションにいます。先日、ロシアで行われたFIFAワールドカップの日本代表初戦日には本学校友である長友佑都選手の広告を朝日新聞の全国紙に掲載しました。決勝トーナメントに進出した際には朝日新聞号外にも掲載し、話題になりました。その長友選手の活躍は皆さまの記憶に残っているかと思えます。また、明治大学の志願者数は今年12万人を超え、全国で3位の志願者数でした。併願の数を含まない「実志願者数」では全国で1位です。明治大学の存在感は非常に大きくなっています。

その期待に応えるためにも本学は現在、さまざまな取り組みを行っております。昨年、「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金制度」を設立し、今年この制度を利用して6人の学生がハーバード大学やスタンフォード大学に留学をしています。また、フィリピンのマニラに「明治大学マニラ英語トレーニングセンター」を設立し、この夏には約30人の学生を派遣しています。来春には100人程度を派遣したいと考えています。さらに来年4月には留学生と日本人学生が共に生活・学ぶ「明治大学グローバル・ヴィレッジ」が竣工します。

ただ、まだまだ学生へのサービスは足りておりません。進学ブランド力調査「志願したい大学(関東エリア)」ランキングで明治大学は総合2位という結果でした。男子学生が1位であるのに対し女子学生は4位で、昨年よりも順位を落としています。女子学生にさらに志願してもらうためにも施設面での改善が必要です。中野キャンパスにおいては図書館や課外活動等の施設が不足しています。残りの任期中にこれらの課題に向き合っていく所存です。

明治大学が今後もフロントラインに立ち続けるには、教職員と校友が一体となり、さらに前進をしていく必要があります。そのために、引き続き皆さまのご協力をいただきたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

## フロントラインに立ち続けるために